名古屋芸大グループ通信

55
April
2021

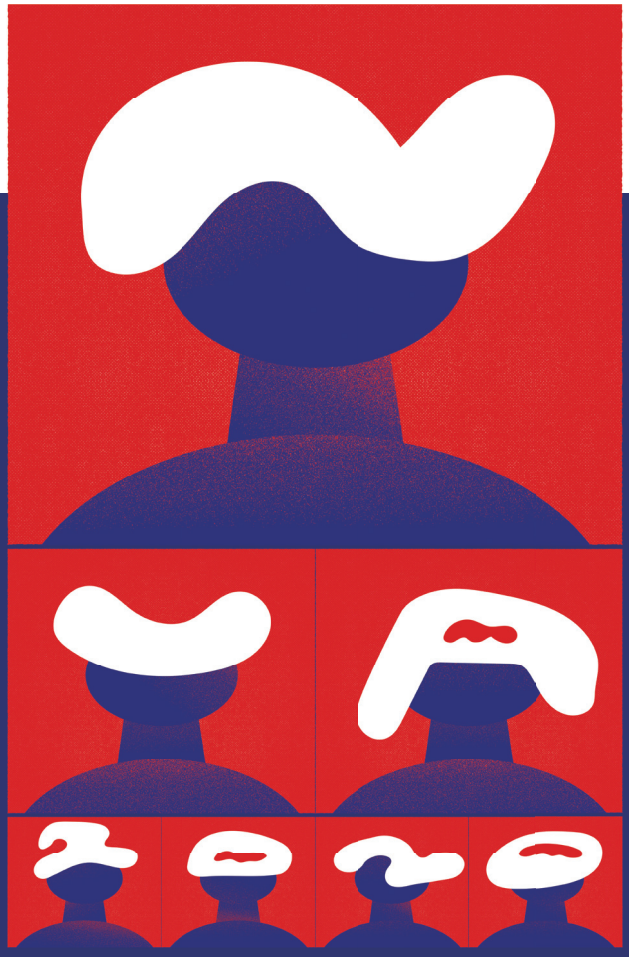
Master Artist
マスター アーティスト
絵の深み
美術領域 日本画コース 教授
長谷川喜久

NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS
DEGREE SHOW 2020
archive

【特集】
第48回 名古屋芸術大学 卒業制作展
第25回 名古屋芸術大学大学院 修了制作展
アーカイブ

名古屋芸術大学グループ
NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS
http://www.nua.ac.jp

■名古屋芸術大学／大学院：音楽研究科 美術研究科 デザイン研究科 人間発達学研究科
学部学科：芸術学部 芸術学科 音楽領域 舞台芸術領域 デザイン領域 美術領域 芸術教養領域 人間発達学部 子ども発達学科
■名古屋芸術大学保育専門学校
■名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園
■滝子幼稚園 ■たきこ幼児園 ■愛知保育園
■幼保連携型認定こども園 森のくまっこ ■名古屋音楽学校



【特集】第48回 名古屋芸術大学 卒業制作展 第25回 名古屋芸術大学大学院 修了制作展 アーカイブ

NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS
DEGREE SHOW 2020
archive

2021年2月19日（金）〜2月28日（日）の間、本学西キャンパスで名古屋芸術大学卒業・修了制作展を開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大による非常事態宣言下、さまざまな防疫対策や安全に作品を鑑賞していただくための工夫を施した結果、多くのご来場、アクセスをいただきました。

本特集では、特に優秀だった作品をピックアップ、卒展運営のキーパーソンのコメントと共に、名古屋芸術大学卒業・修了制作展を振り返ります。

全作品の閲覧や
バーチャルツアーは
こちらからどうぞ

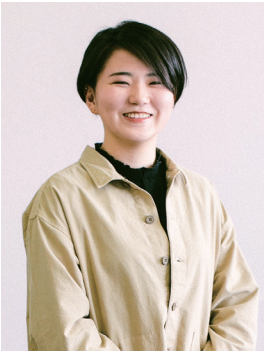
「人間生きてるだけで偉すぎる。」

卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞　グランプリ

ライフスタイルデザインコース
科野里佳

15問の設問に答えていくと、その人のストレスの要因を診断し、負荷の大きさを順番で表示して、その対処法が示されるスマートフォンのアプリ。ゲームのような感覚ですが、その内容はしっかりと医学的なデータに基づいたもので、診断してみるとなるほどと納得できる結果が出ます。「人とコミュニケーションを取ることが苦手で、自分の生き方をマニュアル化できたらいいなと考えました。『生きてるだけで偉い』や『人生1回目の私はほかの人みたいにうまく生きられない』といったネットやドラマで使われている言葉に共感して、それをキーワードにしました」。形のないアプリ作品だけに、展示方法も何通りか考え見やすい形に工夫されています。

科野さんにはプログラミングの経験がなく、このアプリのために一から勉強したそうです。「友人に手伝ってもらいながら挑戦しました。プログラミングをかじった程度でも、できることがたくさんあり、もっとできることを増やしていけたらと思っています」。



「何処へ」

卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞　佳作
北名古屋市長賞
名古屋芸術大学後援会賞

日本画コース
安藤祐実

手にした白百合や折り鶴、数珠などが死を連想させる作品。モチーフはやはり野辺送りの行列なのだそう。昨年、近親者を亡くし、その時の経験を描いたといいます。コンセプトは、亡くなった人は何処へ行くのか、また、残された人たちは何処へ向かうのか。

作者の安藤さんは、生と死をテーマにする作品をこれまでにも描いてきたそうで、その集大成ともいえる作品。描かれている人々は死者と関連のあった人々であり、自分自身の投影でもあるといいます。描かれた人々のおぼろげな行き先と、それぞれの濃淡が関係性を表しているようにも見え、将来が見通せない現代社会とつながっているようにも感じます。

技法的には、梱包材を使ったスタンピングが取り入れられており、絵に深みを与えると同時に、現代的な感覚が感じられます。「ひとつの作品にたくさんの賞をいただき、大きな自信になりました」。

「園」

卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞
佳作

メタル&ジュエリー
デザインコース
長谷川銀星

蝶をはじめとした昆虫や動物、植物を金属で表現した作品。中でも、シルバーと七宝を組み合わせた蝶が目を引きます。長谷川さんは、自然の美しさをモチーフに制作を行っており、その集大成といえる作品です。「自然の造形物が一番完成されていると思い、なんとかジュエリーでその美しさを作り出せないかと考えています」。さまざまな技法を試しながら制作を行い、作品はその研究成果の発表でもあるそうです。「蝶はシルバーと七宝を組み合わせて使っていますが、七宝は純銀でなければ安定しません。それをシルバー 950という割金を使い制作しました。象嵌七宝という技法に近いものですが、これまで確立されていなかった技法です。ほかにも蜂の作品には透胎七宝という技法を使ったり、鋳造もやってみたりと、いろいろな技法を使って制作しています」。卒業後はジュエリー作家として活動していくとのこと。「夏頃、京都の祇園にお店を開くことを目指して準備しています」

「ラース・ドレイク・ベギラモス」

卒業制作優秀賞

メタル&ジュエリーデザインコース
川村侑己

架空のドラゴンを立体で表現した作品。翼のない地を這うドラゴンの頭部と爪の一部を制作、スケールを感じさせます。鱗の多面的な立体表現は光の加減で陰影をつくり、素材とあわせ重厚感があります。川村さんは、子供の頃からドラゴンが登場するファンタジーが好きで、児童文学の『エルマーのぼうけん』シリーズ、『ハリー・ポッター』シリーズ、ゲームのCGなどからイメージを膨らませたといいます。「ドレイクはドラゴンの古語です。ドラゴンというと翼があるイメージかもしれませんが、大蛇のように翼のないものもドラゴンの一種で、今回の作品ではそれをイメージしています。自分はジュエリーのような細かい作業があまり得意ではなく、大きな作品を作りたいと考えました。骨組みに薄い鉄板を溶接して制作しましたが、鱗の配置や重量があるので作品のバランスを取ることが難しく苦労しました。卒業制作で賞をいただけたことはとても嬉しく、作品にも大いに満足しています」。

「regeneration of the magic kingdom」
ブライトン大学賞ノミネート作品
アートクリエイターコース（コミュニケーションアート）
小栗みずき

「ゆめのはなしについて」
卒業制作優秀賞
アートクリエイターコース（コミュニケーションアート）
林和奏

「T'sty」
ブライトン大学賞　佳作
アートクリエイターコース
（陶芸・ガラス）
近藤みこ乃

「禍福」
卒業制作優秀賞
文芸・ライティング
コース
中井夏希

「神さまのペットショップ」
卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞
ノミネート作品
さわやか賞
イラストレーションコース
杉浦芽生

「×（カケル）生き物」
卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞　佳作
テキスタイル
デザインコース
道下凪沙

「うつせみのほし」
卒業制作優秀賞
イラストレーションコース
纐纈澪月

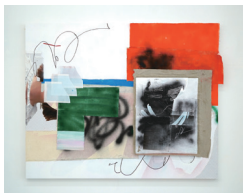
「水上ビルとは何なのか
–複雑に入り混じる
水上ビルの魅力を
紐解く–」
卒業制作優秀賞
リベラルアーツコース
大竹菜実

「澄明」
卒業制作優秀賞
日本画コース
岩崎かりん

「そっと、」
卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞ノミネート作品
森荘賞
日本画コース
坂茉尋

「漂着するボレロ」
卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞ノミネート作品
北名古屋市教育委員会賞
洋画コース
有賀まなみ

「shave」
「layer」
「reduction」
卒業制作優秀賞
洋画コース
小池匡徳



第 48 回卒業制作展／第 25 回大学院 修了制作展を振り返って

芸術学部長／デザイン領域　教授　萩原周

非常事態宣言下で卒業制作展を実施できるのか？ そもそも、こういう大きな問題がありました。おそらく、去年4月の状況であれば無理だっただろうと思います。しかしながら、時間が進むにつれ対応の方法が徐々に明らかになり、入り口を一本化し、非接触で受付を行い、万が一の際にも対応が取れるよう連絡先を明確にしていただく、こうしたことをスタッフみんなで考え体制を整えることで卒展を実現することができました。状況によっては、最悪、途中で開催を打ち切ることまでを想定していましたが、無事に滞りなく開催できたこと、こ

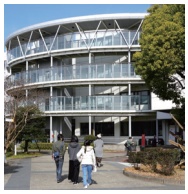
「アーモンド、鏡を見る」
卒業制作優秀賞
洋画コース
大野未来

《囀りと、風景》
「風景」
「黒煙」
「鎮火」
卒業制作優秀賞
洋画コース
金里珉

「Idol」
「キックボード」
「Costume」
卒業制作優秀賞
画荘ヴィーナス賞
洋画コース
中﨑由梨

れが何よりの収穫といえます。もしも打ち切りになった場合にと、360度カメラなどを用い、仮想で観覧できる仕組みも構築しました。これらもすべて学内スタッフで制作され、無事に開催できたことに加え、こうしたバーチャルの活用といった知見を得られたことも大きな収穫といえます。こうした知見は、今回は卒展で活用しましたが、今後、音楽や舞台芸術といった領域でも生かすことができるだろうと思います。

コロナ禍で、あふれる情報から少し距離を置き一人でじっくりと作品について考える、こうした時間が、作品のコンセプトを練り直すことになり、うまくプラスに働いたという側面もあるかと思います。とかくネガティブな状況がクローズアップされがちですが、それぞれが自分にできることを考えた結果、想像していた以上のものになったのではないでしょうか。



「知りたいをサポートする学習机」
卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞ノミネート作品
インダストリアル＆セラミックデザインコース
小川文華

「normal chair」
ブライトン大学賞　優秀賞
スペースデザインコース
大谷征司

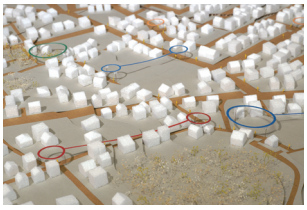
「VIEW-Mugen-」
卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞ノミネート作品
カーデザインコース
藤澤知成

「Madelon」
卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞ノミネート作品
メタル＆ジュエリーデザインコース
伴百合愛

優秀賞、ブライトン大学賞授与式

2021年2月26日（金）、西キャンパスB棟大講義室にて、第48回名古屋芸術大学卒業制作展優秀賞、第24回ブライトン大学賞の発表と授与式を行いました。竹本義明学長は、「卒業制作展が学内で行われるようになって3年目、卒業演奏会は無観客で配信したが、なんとか展示ができ嬉しく思う。本学教員以外からの評価、ことにブライトン大学賞は世界へ出ていくためのひとつの指標となり、新たな発想を身につけていって欲しい」と挨拶しました。

優秀賞の発表は芸術学部長萩原周教授が行い、最優秀賞は洋画コース宇留野圭さん「Triptych study of the closed room」、北名古屋市長賞は日本



「Homing
～通学路に仕掛ける布～」
卒業制作優秀賞
スペースデザインコース
川合由美

「Life screen
～新たな生活の展開～」
卒業制作優秀賞
スペースデザインコース
清水祐作

「たてものといきもの」
卒業制作優秀賞
名古屋芸術大学後援会賞
スペースデザインコース
野島稚愛

「実芭蕉革製作所
-banana leather factory-」
ブライトン大学賞　奨励賞
名古屋芸術大学後援会賞
CBCテレビ賞
5/R Hall&Gallery賞
スペースデザインコース
村上結輝

画コース 安藤祐実さん「何処へ」、北名古屋市教育委員会賞は洋画コース 有賀まなみさん「漂着するボレロ」が受賞しました。萩原教授からは「コロナの影響でさまざまなことが停滞し、作品制作も心配していたが、受賞者たちは停滞した時間を創造的に使い、かえって作品が磨かれたような印象を持った。異常事態の中、質の高い作品が生まれたことを嬉しく思う」とコメントしました。

ブライトン大学賞は、国際交流センター長 デザイン領域 松崎久美准教授から発表されました。初めに、審査を行ったブライトン大学 Caterina Radvan氏、Jeremy Radvan氏の紹介があり、オンラインでの審査を快く引き受けてくれたことに感謝の意が述べられました。グランプリはライフスタイルデザインコース 科野里佳さん「人間生きてるだけで偉すぎる。」、優秀賞はスペースデザインコース 大谷征司さん「normal chair」、奨励賞は洋画コース 宇留野圭さん「Triptych study of the closed room」、スペースデザインコース 村上結輝さん「実芭蕉革製作所 -banana leather factory-」が受賞しました。グランプリの「人間生きてるだけで偉すぎる。」には、「ユーザーを中心としたインターフェースと格調高いデザインフォーマット、社会問題に取り組んでいることを評価する」とのコメントをいただきました。

「人間光合成」
卒業制作優秀賞
メディアコミュニケーション
デザインコース
高橋圭祐

「お菓子・組み箱〈bloom〉」
卒業制作優秀賞
メディアコミュニケーション
デザインコース
長巳智

「EAT＋MAYO」
ブライトン大学賞　佳作
メディアコミュニケーション
デザインコース
飯嶋健輔

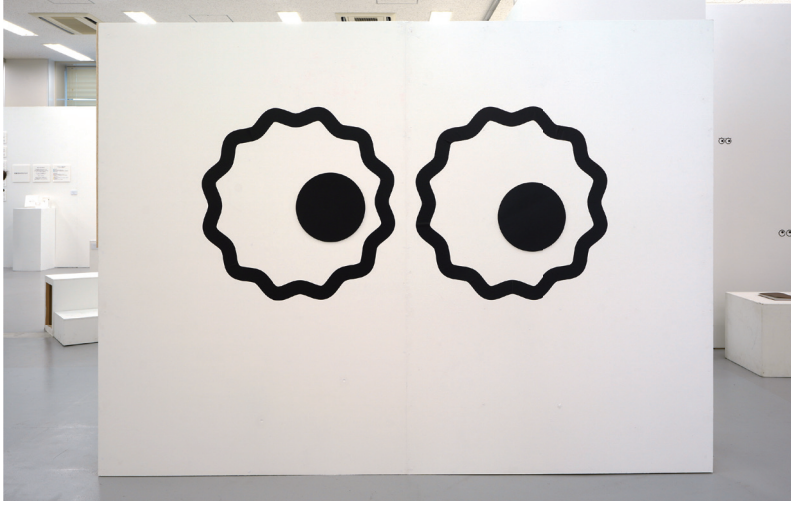
「TENUGUI～National Flag
～日本文化と世界」
卒業制作優秀賞
メディアデザインコース
影山亜美

コロナ禍の中での卒業制作展

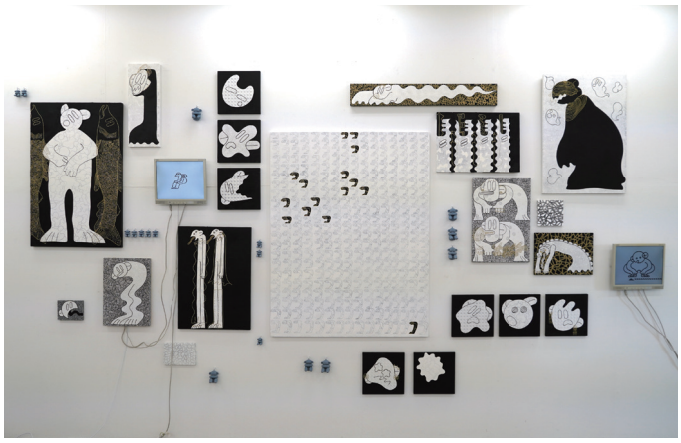
アート＆デザインセンター　磯部絢子

コロナ禍での開催ということで、感染対策をしっかりと考えて準備をしました。万が一感染者が出た場合を想定し、入場者の連絡先がわかるよう受付を一本化、受付自体もできるだけ非接触で行うことができるように手渡す目録などをあらかじめ用意し、例年行ってきたスタンプラリーの方法も変更するなど、運営方法を工夫しました。感染者が出た場合、途中で打ち切りになることを想定し、Web対応を行うことが決定され、「WEB卒展 2020」と「Nua Art Fair 2020」も制作されました。これまでは開催するまでの準備が主でしたが、今回は期間が始まってから3Dウォークスルーの撮影があり、データのアップロードやSNS対応、実際の運営についてもシャトルバスが中止になり、自家用車で来られる方の駐車場への案内など、期間中も対応にも追われました。昨年までよりもやらなければならないことが増え、たくさんの方々に協力していただき、また学生たちにも手伝ってもらい、無事に開催することできました。本当によかったです。結果として、学内開催になって最多のお客様にお越しいただき、アートフェアでの売上も過去最大になりました。厳しい状況の中での卒展でしたが、こうした活動を続けることの意味や大切さを一層感じています。

「medama」
卒業制作優秀賞
ヴィジュアルデザインコース
西川真衣



「Strange Distance」
卒業制作優秀賞
ブライトン大学賞　佳作
ヴィジュアルデザインコース
太田洋哉



「どうしちゃったのさ森」
卒業制作優秀賞
ヴィジュアルデザインコース
森島ひかり

「WOE」
卒業制作優秀賞
ヴィジュアルデザインコース
川浦真歩

WEB卒展 3Dウォークスルー、VR対応について

デザイン領域　メディアデザインコース　講師　加藤良将

今回の卒業制作展では、360度カメラを使用した3Dウォークスルーを制作し、WEBで卒展を観ることができるよう対応しました。制作にあたっては、機材を学内で用意し、3年生の学生が撮影を担当しました。コロナ禍という状況で、実際に展覧会に訪れることができなくなる可能性もあり、こうした対応は必須のことでした。じつは卒展以前に、デザイン領域のレビュー展やナゴヤ展で3Dモデル制作のトライアルを行っており、そこで得られたノウハウを学生たちにフィードバックして制作を行いました。卒展全体という規模、室内に加え、明暗差のある屋外での撮影、公開までのスケジュールの短さなど、いろいろと不備な点もありますが、初めてにしてはまずまずのものができたのではないかと思います。バーチャルで見られることで、来年度の卒展に向け3年生がスケール感をつかんだり、オープンキャンパスに活用したりと、指導や広報などさまざまな活用が考えられます。画像にキャプションを加え、動画や外部のサイトに誘導することも可能で、さらにコンテンツを充実させることもできます。コロナ禍への対応ということで始まりましたが、リアルとバーチャル、この両方を今後も意識して対応していくことがアートには求められるのではないかと思います。

マスター to アーティスト

【第52回】

＜ 絵の深み ＞

長谷川喜久

（はせがわ　よしひさ）

美術領域　日本画コース　教授

1964年　岐阜県生まれ
1988年　金沢美術工芸大学 大学院修了
日展特別会員、新日春展理事

富士高峻

受賞歴・展覧会

1989年　全関西美術展第一席（'91読売新聞社賞）
1991年　日春展奨励賞
1992年　川端龍子大賞展大賞
1993年　上野の森美術館大賞展フジテレビ賞
1997年　日春展日春賞（'98）
　　京展市長賞（他受賞4回）
1999年　日展特選（'01・'05会員賞、'19東京都知事賞）
2002年　京都新鋭選抜展第一席、文化庁主催美術展
2004年　万葉日本画大賞展準大賞
2009年　クロスアートⅡ ARTのメリーゴーランド展（岐阜県美術館）
2010年　個展（JR名古屋高島屋、高島屋大阪店・東京店・京都店）
2011年　上海美術館主催長谷川喜久展（上海美術館）
2012年　上海美術館個展報告展（加藤栄三・東一記念美術館）
2013年　個展（大丸心斎橋・京都店）
2014年　アートフェア東京 長谷川喜久墨彩画展（東京国際フォーラム）
　　今をいろどる～現代日本画の世界サテライト長谷川喜久展（岐阜県美術館）
　　個展（藤崎本店／仙台・JR名古屋高島屋、高島屋大阪店・福山天満屋）
2015年　個展（日本橋三越本店 '18）
2016年　長谷川喜久日本画展-巡る季節に-（松坂屋名古屋店 '20）
　　創と造 現代日本絵画・工芸 新作展（五都美術商連合会主催）
　　建仁寺塔頭両足院 奉納記念 長谷川喜久 日本画展

本学西キャンパスK棟のアトリエにお邪魔した。描きかけの風景画がいくつも床に散らばる。壁にも、これもまた描きかけの大小さまざまな花鳥画。鮮やかな色使いがパッと目に飛び込んでくるが決して単調ではなく、細やかな色の組み合わせに目を奪われる。繊細に組み立てられた構成も心地良く、なんとなくリズムを探したりしながら、気がつけばじっと絵に見入ってしまっている。“魅せられる”とは、こういうことなのだろう。

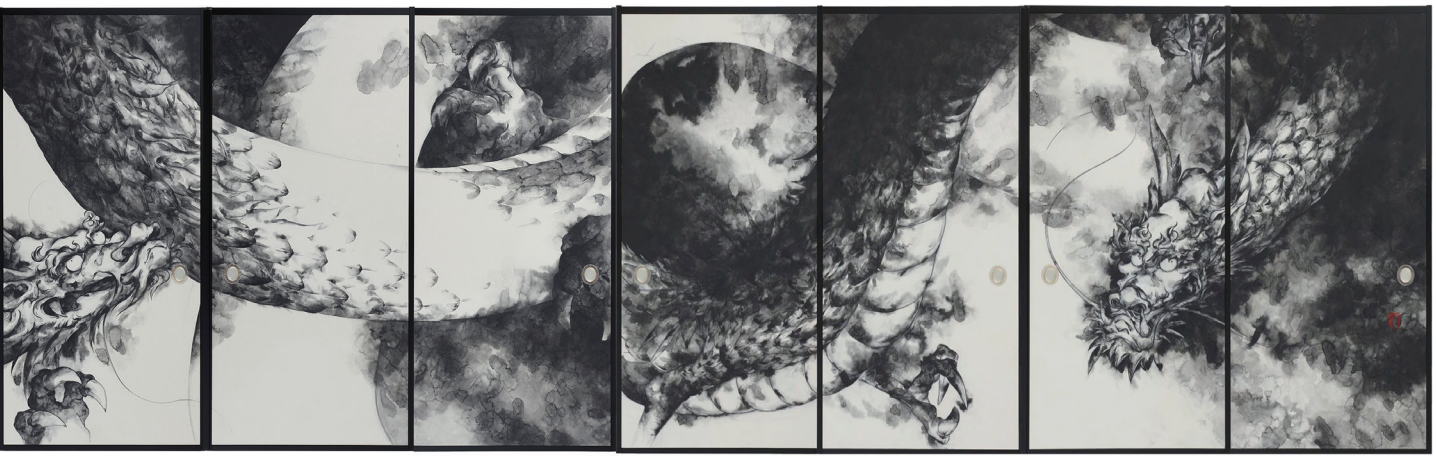
紅白牡丹図屏風（部分）

「小さい頃から絵が好きで……、ありきたりですけどね」と前置きしつつ話し始めた。日本画との出合いは明確で、小学生時代に見た加藤栄三（1906-1972）だったという。「小学校2年の時カラリストとして有名だった加藤栄三先生の遺作展を見に行きました。青色の綺麗さとか、でも色だけにとどまらない情感の深さみたいなものを感じたのです。子供心にこの絵はほかと違っているなと衝撃を受けましたね。遺作展なので、作家の時代の変遷を一覧できるようになっていて、殊更強く感じるものがありました。その後、中学でバスケットとバンドに明け暮れ、絵のことはすっかり忘れちゃうんですけどね（笑）」。

それでも美術への思いは消えておらず、高校は地元岐阜の美術科のある学校へ進学する。「高校へ入ったときは、日本画じゃなかったんですよ。洋画とデザインでしたね。ただ、洋画の絵の具と体質が全く合わなかった。よく水性のものに馴染みがよくて油はダメってあるじゃないですか。僕もその一人。デザインの画材に対してももう一つしっくりきませんでした。当時の先生たちももてあますところがあったんでしょうね。先生同士でトレードするみたいな形で、日本画専攻になってました」。

自身で日本画を選んでいないような話しぶりだが、光るものがあったのだろう。もう一つ、進学についてのユニークなエピソードを。「金沢の大学へ行くんですが、受験は東京の学校へも願書を出していたんですよ。ところが、受験日をすっかり忘れていて、母親から何やってるのといわれて気がつきました。試験を受けに行かなくても不合格通知が来るんですよね。受けてもいないのに不合格通知をもらって気分悪いじゃないですか。その状態で本命を受けなきゃいけないみたいなことになって……」。本人は決してそうはいわないが、それは意志なのではないだろうか。自分で選び、退路を断つ。忘れていたとしても、それほど関心がなかったということ。自分の進みたい道へ賭けてみたいという堅く強い意志を感じさせる。

「基本的に20代の頃は年間1500号くらいは描こうと、それくらいのペースを守ってい



双龍図（金寶山　天澤院／2019年8月26日完成）

共讃の花花

真夏の夜の夢

建仁寺両足院奉納屏風

湧く雲に立つ

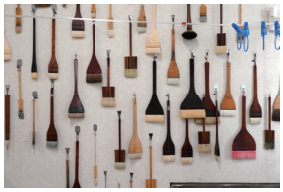
七彩の季

（建仁寺塔頭両足院／京都）
2017年　個展（阪急梅田）
2018年　「美術の窓」挿絵原画展（ギャラリー和田）
　　個展（JR名古屋高島屋、高島屋大阪店）
2019年　目で見る名曲集－GORO NOGUCHI GOLDEN HIT PARADE－
　　プロデュース

ましたね。アーティストとして、やはりそれくらいの量はこなしていかないとと思いずっとやってきました。今でも年間１０００号は描いています」。１枚に更なる時間をかけて制作枚数を減らし描きつめていくスタイルもある。もっと多くの作品を制作する作家もいる。しかし、創作の指針を決め、それに取り組み続けていることが重い。「５年、１０年と目標を立ててやっていますよ。何年かに一度は大きなサイズのものを描きたいと思います。自分の作品を展示するときに大きな作品が節目節目で出てこないとバランスもよくないだろうし」。

現在は風景と花鳥を主としているが、以前は人物を中心に描いていたという。「人物を描くと自画像になるんですね。少なからず自分が含まれます。自分の疑似体験の物語のようになっていったのですが、それでいいと思って描いていました。しかし、そうなると体験していることしか描けない。自分の中にある感情や人格に根差したものしかできない。あるとき、尊敬する作家が同じようなことをおっしゃっていました。今では、絵画はもっと幅が広くて自由であっていいのではないかと考えています。自分の中にあってもなくても、見た人の共通認識を呼び覚ますものもありますし、もっと広くものを見るようになりましたね。絵を描いていると、おそらく誰でも人物、風景、花鳥と少しずつテーマが変わっていったりします。そうした変化も自分なりに大切にしたいと思っています」。

去年は大きな変化の一年であった。これまでと同じでいいのか、芸術に限らずすべての領域でそのあり方が問われた。「僕がやっている企画では、自治体や市、県であったり、あるいは国、公共の方々と仕事をすることが多々あります。その様な活動の中で考えをまとめていくと絵や芸術が必要な場所、そこに音楽を発表したり美術品を存在させたりする必要性のある場所、そうしたものが見えてきます。そんな時に数字では測れない働きをかける。アートにはそうした役割があると思います。僕は若い頃からそうしたことを体験できるよう、上の世代の人たちに機会を与えられていた気がします。我々がやってもらったことは、同じように次の世代に伝えていく義務がある。アーティストは一人で創作を行っているように思われがちですが、実際はいろいろな人とのつながりで成り立つ事が多いです。そうしたかかわり合いを持ちながら進めていくスキルを身につけて欲しいと思いますので、今後もこの方法論を継続していきたいですね」。



絵筆や岩絵具など、さまざまな画材が並ぶアトリエ。江戸時代に作られた墨もあり、年代が古くなるにつれて墨色も変化し味わい深い表情が出るといいます

もう一度、絵を眺める。温度や湿度、絵の中のその場の空気を感じさせる。込められているものの大きさがそう見せるのだと気づかされた。

卒展記念講演会　來住尚彦氏
「アートはビジネス ～アートのプラットフォームを生み出す～」

記念講演第一弾は、一般社団法人 アート東京 代表理事、アートフェア東京エグゼクティブプロデューサー /artKYOTO・art stage OSAKA総合プロデューサーの來住尚彦氏をお招きしました。

來住氏はTBSに入社後、ライブ空間「赤坂BLITZ」、複合エンターテインメント空間「赤坂サカス」企画立案を行っており、さまざまなコンサートのプロデュースを手がけてこられました。2015年よりアートフェアをプロデュースする現職に携わりますが、海外からアーティストを招き日本に紹介することは、エンターテインメントもアートも同じであるといいます。

お金に関しても、文化と経済は相反するものと捉えられがちですが、そうではなく、お金に結びつけないと文化も衰退し、お金によって新しい価値、そして文化が生まれる、とマネタイズの重要性を説かれます。また、世の中の課題に最初に気づける力がある人が一番早くその課題を解決できるといい、世の中の課題を見つけ出すことがクリエイターの大事な責務であるとお話しいただきました。

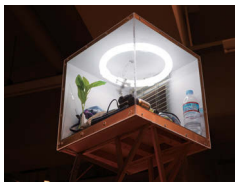
卒展記念講演会　佐藤卓氏
「あなたは、これからどう生きていくか？」

記念講演第二弾は、グラフィックデザイナーの佐藤卓氏をお招きし、これからの時代、どう生きていくのか、という演題でお話しいただきました。

佐藤氏は大学院卒業後、電通に入社。「ニッカ・ピュアモルト」の商品開発の他、数多くの商品デザインを手がけ、それが単にパッケージデザインにとどまらず、商品の企画や製造にも大きくかかわっていることに特徴があります。デザインの役割は、形を整えることでなく、その中身と人を繋ぐことだといいます。

何かを生み出すのではなく、価値を見出し、それをビジュアル化して伝え、繋げること。デザインはビジュアルを使ってのコミュニケーションだと説明します。そこから「デザインの解剖展」やNHK Eテレ「デザインあ」など、デザインのあり方を見つめ直す活動へと幅が拡がっていきます。世の中や人の営みすべてにデザインは必要であり、デザイナーは自己のスタイルからももっと自由になるべきであると説明しました。

表紙の作品



「Triptych study of the closed room」

卒業制作優秀賞　最優秀賞
ブライトン大学賞　奨励賞
名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会賞
朝日新聞社賞

洋画コース
宇留野圭

写実的な油絵を描いていましたが、制作の必然性がわからなくなり、表現を変え自分がこれまでやってきたことを思い返し経験や興味を盛り込んだ立体作品を制作しました。試行錯誤しながら立体作品を作るようになり、これでいいのかと悩みながら、それでも自分なりの表現になるのではないかと考えました。ひとつの密室をテーマに制作を始めましたが、外界とのつながりから受ける影響を考えて部屋を増やし、さらに絵画のトリプティック（三連祭壇画）の型式にしようと思いつき3つ目の部屋を作りました。個々の部屋は静物画のイメージで、それぞれに象徴的なものが配置されています。機械の不具合やトラブルも作品に取り入れたくて、作りながら作品は変わっていきましたが、何とか形にすることができました。部屋は僕自身の内面を表現しながらも、作品を見た人から自分の部屋に似ていると感情移入して見てもらうこともあり、意図がうまく伝わったと嬉しく思いました。

「名古屋芸大グループ通信」ウェブサイト

発　　行：名古屋芸術大学
企画・編集：広報部
デザイン・協力：くまな工房一社
印　　刷：㈱クイックス
発　行　日：2021年4月23日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学　広報部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話　0568-24-0318
FAX　0568-24-0369
E-mail：grouptu-shin@nua.ac.jp

Japan Institution for Higher Education Evaluation
JIHEE since 2004
UNIVERSITY 2017

※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。